

化石大好き！ ～アンモナイト徹底調査～

玉名市立高道小学校 4年 宮本 じゅん

1 研究の目的

化石発掘の体験や博物館を見に行ったことがきっかけで、化石が大好きになった。その後、博物館の見学や体験教室などを通して、学芸員さんたちや専門家の方々と化石のことについて話をする機会が増え、ますます化石が好きになった。中でも、アンモナイトにキールがあることに気づき、なぜキールがあるか学芸員さんにたずねたが、その学芸員さん達でも分からないということだったので、自分なりに詳しく調べてみたいと思った。

特に御船恐竜博物館で3つの疑問をもった。①キールがある物と無い物があり、それは速く泳ぐための物と予想。②進化するとほうごう線が複雑になるのは、固くなるためと予想。③アンモナイトは絶滅したのに、なぜオウム貝は生き残ったのか？それは、大きさの違いによると予想。

2 研究の方法

(1) ア 全国の博物館（行けるところ）のアンモナイトにキールがあるか観察し、調べる。

イ キールの役割はどんなものかいろいろな形のアンモナイトを粘土で作り、タルの中に入れて時間を調べる。

(2) アンモナイトの断面図やほうごう線を観察し、調べる。

(3) アンモナイトとオウム貝のつくりを比べ、調べる。



3 研究の結果

(1) ア 行った博物館：13カ所 発掘場所：10カ所
キールがあるのは、少なかった。

イ キールの有る無しでは、あまり違いはなかった。
これは、れんしつさいかんを守るためについたと考えた。

(2) ほうごう線が複雑化すると分厚くなることが分かった。これは、体、特に気室を守るためにじょうぶになったと考えた。

(3) アンモナイトには、初期室があり、オウム貝にはないことが分かった。そこで、アンモナイトの卵はかなり小さく産まれることが分かった。アンモナイトは1mm以下で、オウム貝が2cm位なので、アンモナイトは環境変化に耐えにくく、オウム貝は変化に耐えられ生き残れたと考えた。



4 研究のまとめと感想

アンモナイトのキールは、泳ぐためについていたと思っていたが、体を守るための物だと考えた。また、ほうごう線のふくざつ化も体を守るための物だと考えた。ぼくは、こう結果を出してみたが、実際どうだったかは学芸員の方々もはっきり分からないとのこと。なので、さらにおもしろいと思い、他の化石も調べたくなった。化石の世界は、なぞだらけでおくが深いと思った。

